

資料6

まちづくりアンケートの分析結果サマリ

令和7年度第1回上市町総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

令和7年8月26日

地域創生Coデザイン研究所



第1章：分析方針

1.1 分析目標とアプローチ

分析目標とアプローチを以下の通り設定。上市町のまちづくりに関する重要度・満足度を問う問15をベースに、「どのような人々が、どのような取組みを、どのように感じているか」「なぜそう感じているか」について、全体から細部へ分析を進める。

■分析目標

「後期基本計画」「総合戦略」の策定、および「人口ビジョン」の改定へのインプット案となる分析とする

■分析のアプローチ

➤ 分析の基本的な観点

- どのような人々が、どのような取組みを、どのように感じているか
- なぜそう感じているか（仮説）

➤ 分析の主な手順

- 基本的な集計から徐々に複雑な集計を進めて特徴を理解し、データのもつ情報・構造を把握
 - ✓ 問15（上市町のまちづくりに対する重要度・満足度）をベースに年代・性別・家族構成・地域などの属性を紐解いていく
 - ✓ 分析にあたっては、3つの基本目標である、つながる上市（子育て支援、教育・文化）、にぎわう上市（産業、基盤整備）、ささえあう上市（福祉・健康、生活安全、行財政運営）の分野群とみなし、分野群内で分析
- データの構造等を踏まえて、分析観点に沿った情報を可視化図に抽出
 - ✓ コメント／示唆を適宜付与
- さらに課題感が強いと思われる取組みについてはより詳細な分析を実施

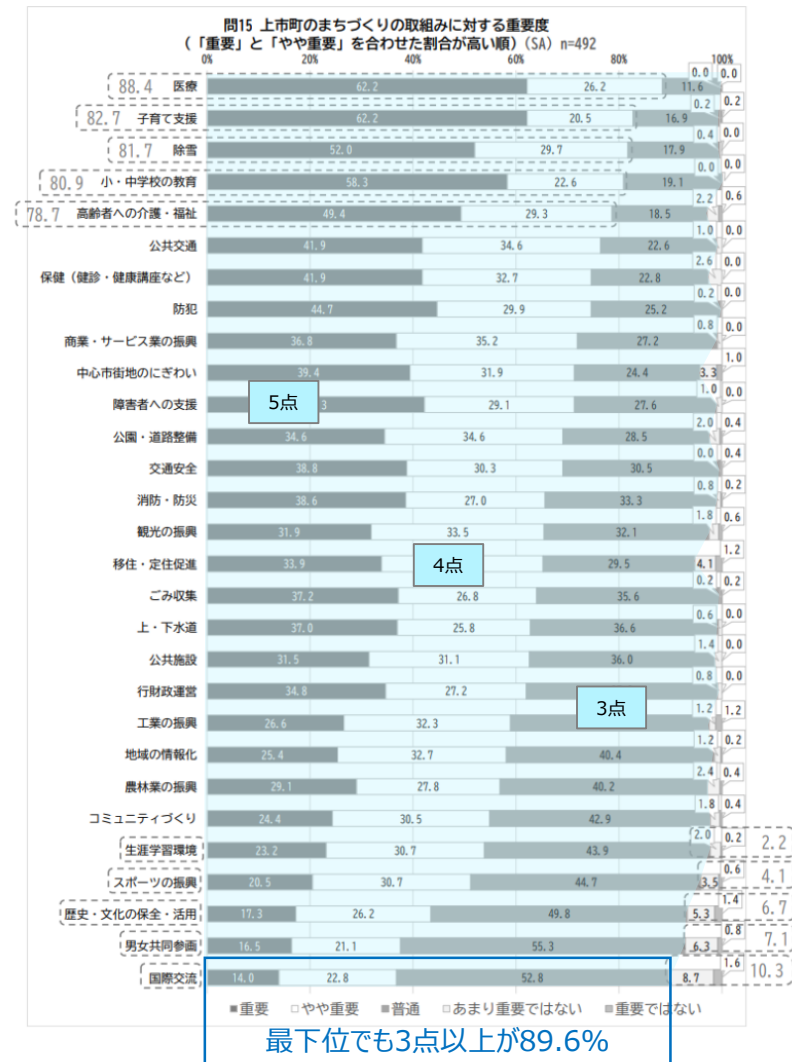
問15 あなたは、毎日の生活の中で、以下にあげたまちづくりの取組にどの程度満足していますか。また、今後の取組みとしてはどの程度重要だと思いますか。ご自身の生活と関連が少ない項目についても、ご家族や地域の状況を踏まえてできるだけお答えください。（1.～29.のすべての項目について、A.満足度、B.重要度それぞれに○を1つずつ）

項目	評価	A. 取組に満足していますか					B. 取組は「重要」だと思いますか				
		満足	やや満足	普通	やや不満	不満	重要	やや重要	普通	あまり重要ではない	重要ではない
回答例	保健（健診・健康講座など）	5	4	③	2	1	5	④	3	2	1
1.	保健（健診・健康講座など）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2.	医療	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3.	高齢者への介護・福祉	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4.	障害者への支援	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5.	子育て支援	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6.	移住・定住促進	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7.	公園・道路整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8.	公共交通	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9.	上・下水道	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
10.	ごみ収集	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
11.	消防・防災	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
12.	除雪	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
13.	交通安全	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
14.	防犯	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
15.	小・中学校の教育	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
16.	生涯学習環境	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
17.	スポーツの振興	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
18.	歴史・文化の保全・活用	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
19.	農林業の振興	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
20.	工業の振興	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
21.	商業・サービス業の振興	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
22.	中心市街地のにぎわい	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
23.	観光の振興	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
24.	国際交流	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
25.	男女共同参画	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
26.	地域の情報化	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
27.	コミュニティづくり	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
28.	行財政運営	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
29.	公共施設	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

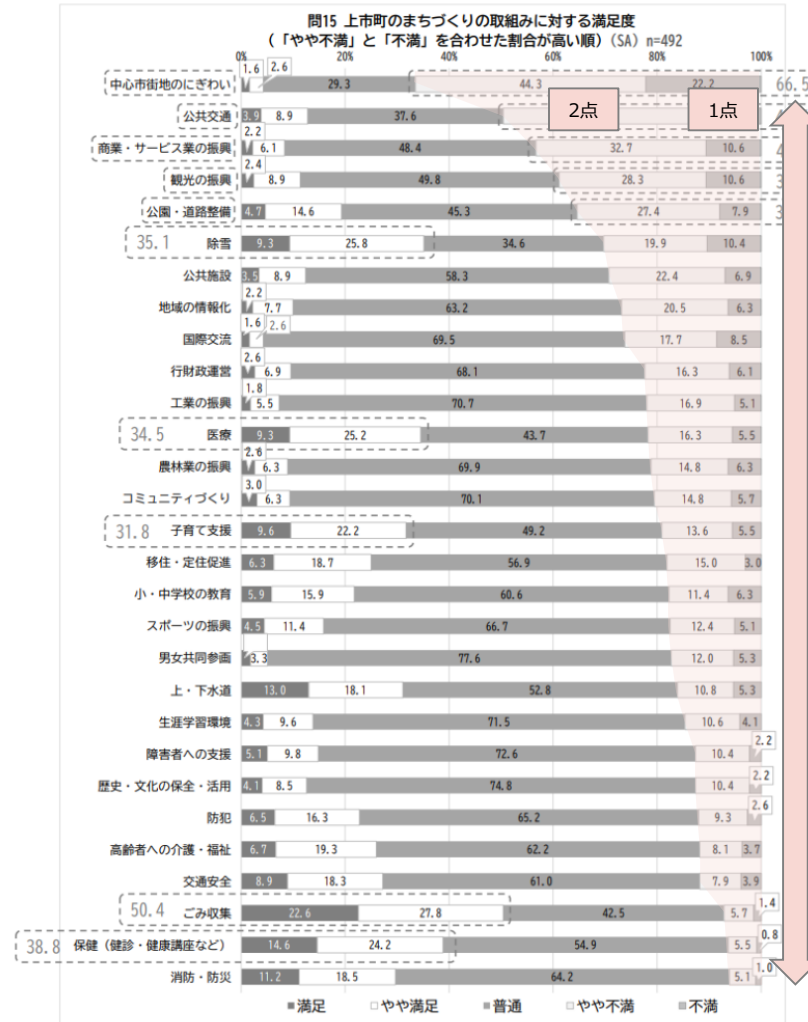
1.2 取組みの重要度・満足度の分析方針

問15の結果から、重要度が低いと意識されている取組みは無いと言えるため、重要度が高いものの満足度が低く、そのギャップが大きいほど取組みが課題を有する、という前提を基本として分析していく。

【重要度】 出典：調査結果報告書 P.22



【満足度】 出典：調査結果報告書 P.20



■重要度の傾向

重要度最下位の「国際交流」の取組みでも、約9割が3点（普通）以上の評価であり、重要度が低いと意識されている取組みは無い

■満足度の傾向

一方の満足度は、やや不満（2点）と不満（1点）の合計割合は66.5～6.1%と結果に大きなばらつきが存在する

■取組みの重要度・満足度の分析方針

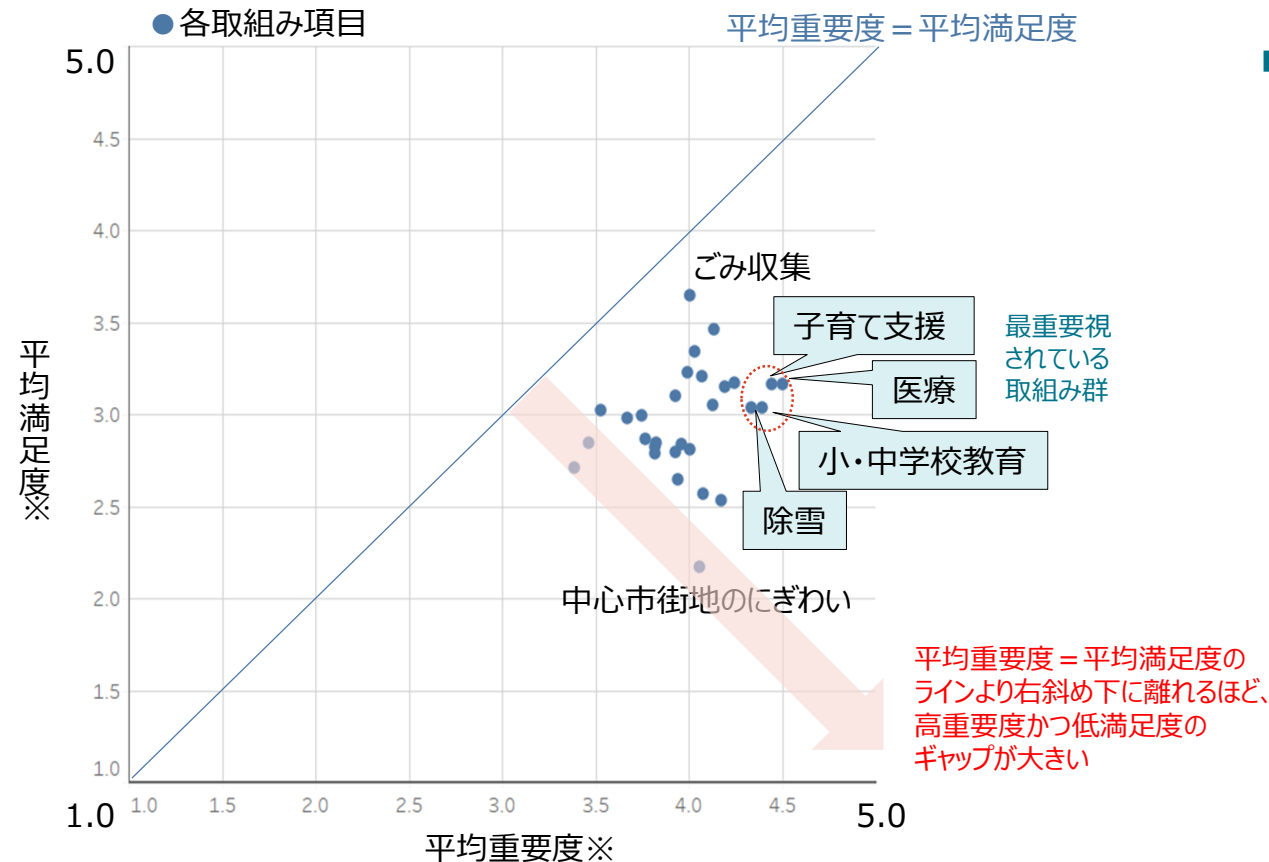
重要度・満足度の傾向を踏まえ、重要度が高いものの満足度が低く（高重要度・低満足度）、そのギャップが大きいほど取組みが課題を有する、という前提を基本として分析

* 重要度→満足度の順序性を重視

2点以下は
66.5～6.1%
と幅が存在

1.3 重要度-満足度の見方

重要度・満足度の設問はいずれも点数（1,2,3,4,5）を明示した5段階評価であり、重要度と満足度における点数の違いを意識して点数を付けたと想定されるため、重要度を踏まえた満足度により「どのように感じているか」を把握する。



※各取組みに対する点数を母集団（ここでは回答者全体）にわたって平均した値。次頁以後では、各年代などに母集団は適宜に置き換わる。

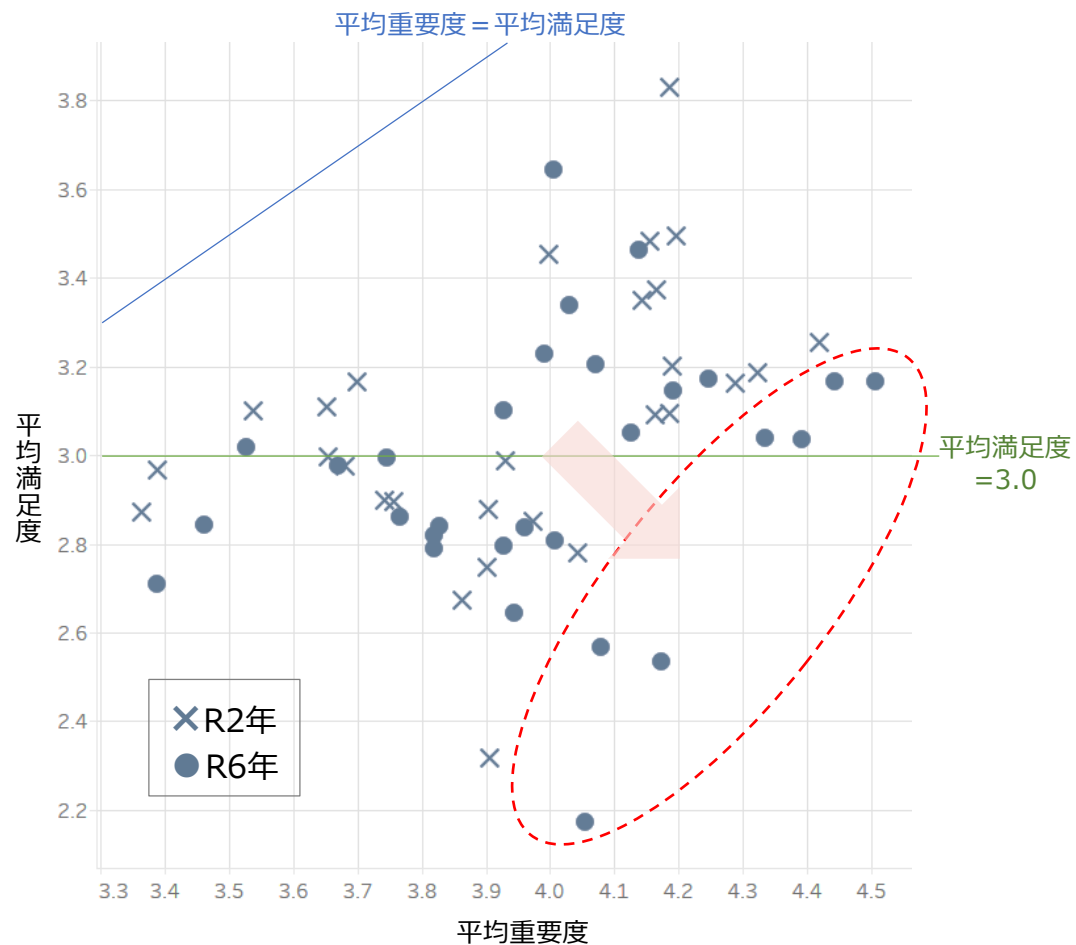
■ 重要度-満足度の全体傾向

- 重要度と比較して各取組みはいずれも相対的に満足度が低く、最重要視されている取組み群にも重要度に見合った満足度が与えられていない。
- 「医療」「子育て支援」「小・中学校教育」「除雪」は全体で捉えた場合に、重要度最上位群と言える。

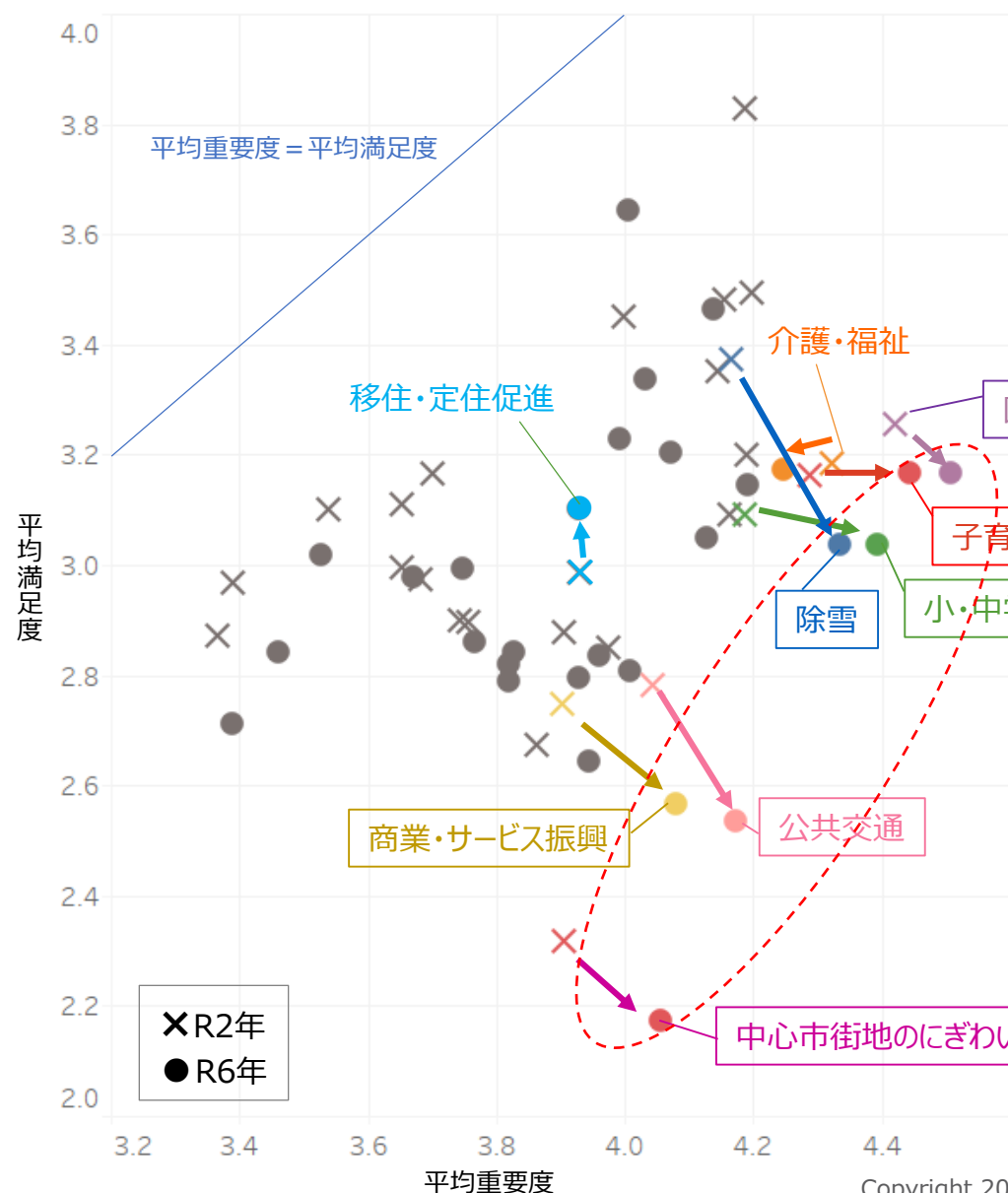
第2章：令和2年から6年への経年変化分析

2.1 重要度-満足度：取組み全体の経年変化（全年代）

- 重要度-満足度という観点で見ると、R2年に比べてR6年の住民意識は、重要度が上昇し満足度が減少する傾向。
- 高重要度かつ低満足度側の限界が拡大していることから、優先課題においても課題感が増大していると伺われる。



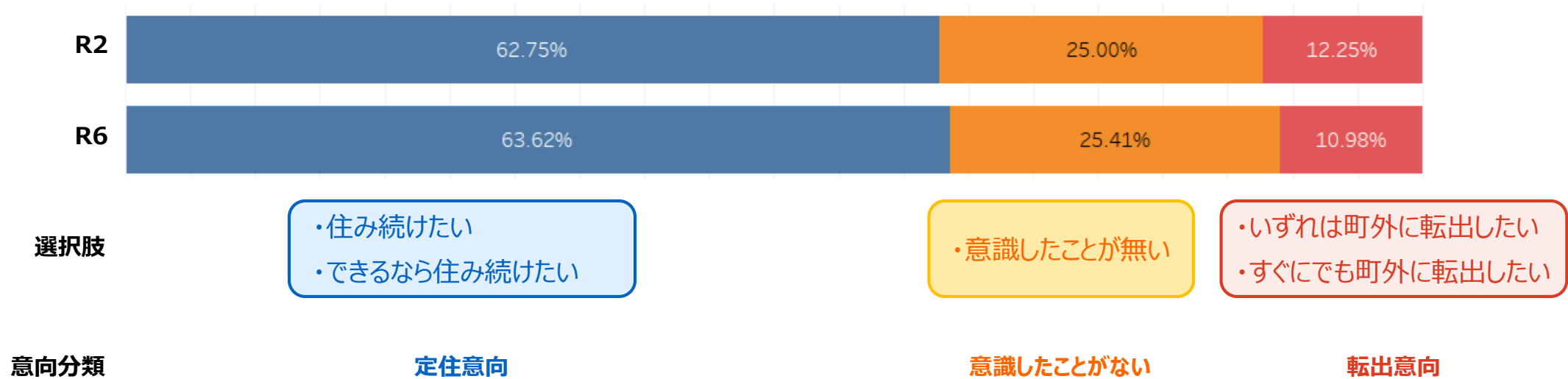
2.2 重要度-満足度：課題感の強い取組みの経年変化（全年代）



- R6に見られる課題感の大きい取り組み群のそれ以外からの**解離**はR2/R6の経過に伴って生じているように伺われる。
- 「移住・定住促進」は満足度が**増大**（全年代では唯一の取り組み）
- R6で解離していない「高齢者介護・福祉」はほぼ動いていない。

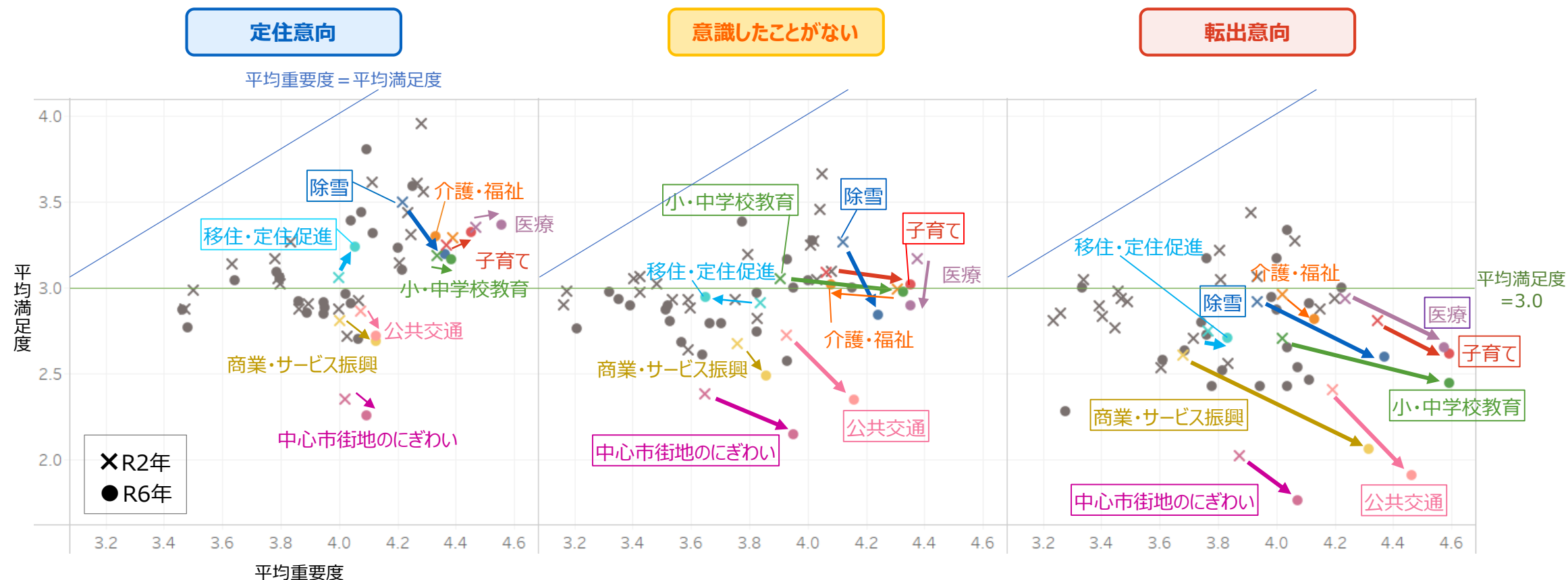
- ・医療：満足度が少し低下、高い重要度がさらに増大
- ・子育て：満足度変わらず、高い重要度がさらに増大
- ・小・中学校教育：満足度ほぼ変わらず、重要度が大きく増大
- ・除雪：満足度がかなり大きく低下、重要度がやや大きく増大
- ・公共交通：満足度が大きく低下、重要度がやや大きく増大
- ・商業・サービス振興：満足度がやや大きく低下、重要度が大きく増大
- ・中心市街地のにぎわい：低い満足度がさらに低下、重要度がやや大きく増大

R6ではR2に比べて定住意向側に少しシフトしている。



2.3 重要度-満足度：課題感の強い取組みの経年変化（定住・転出意向別）

- 定住意向→意識なし→転出意向に沿って、R2/R6で変化する取組みの範囲と変化の大きさの双方が拡大する。
- 変化は重要度が増大し、満足度が低下する方向にある（移住・定住促進は除く）。変化の大きさが、課題感の強さに対応しているように伺われる。
- 転出意向者が感じている課題感は、他の住民と比較して変化の強さが異なるが、その対象となる取組みに大きな違いが無いように伺われる。

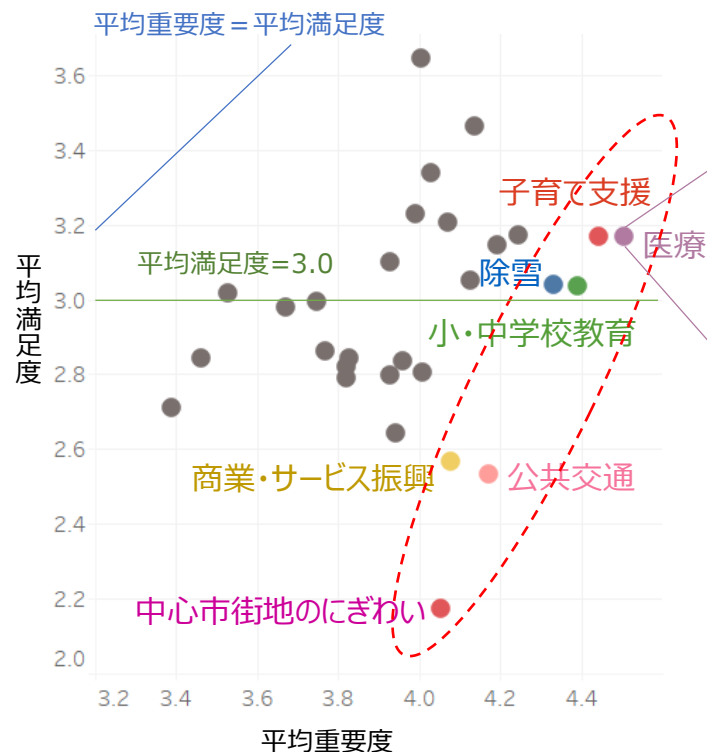


第3章：課題感が強い取組みの詳細分析

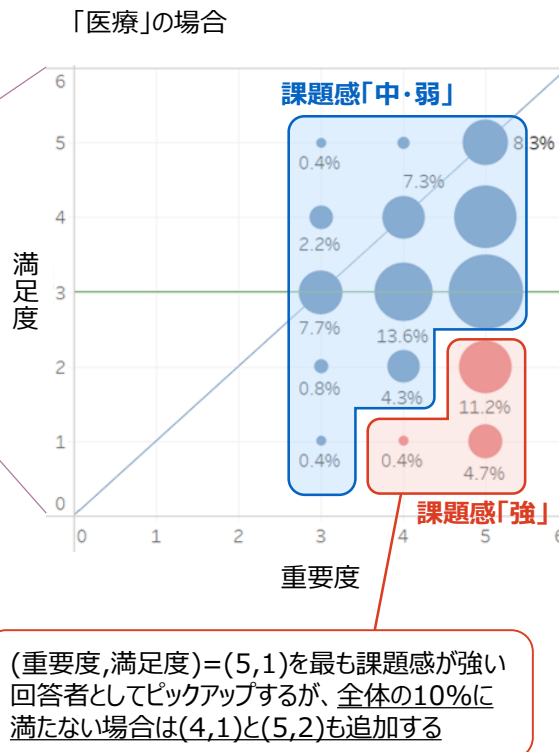
3.1 課題感が強い取組みの選定と分析手法

- R6調査で高重要度x低満足度の観点から乖離している7つの取組みを「課題感が強い取組み」として位置づけ、より詳細な分析を実施する（なお、この7つはR2/R6の経年においても課題感は増大）。
- 回答者を、取組みに対する課題感が強い回答者（高重要度かつ低満足度）とそれ以外の回答者にグループを分け、属性（性別・年代・地域・家族構成）の傾向から、どのような人々かを明らかにし、なぜそう感じているかの仮説を立てる。

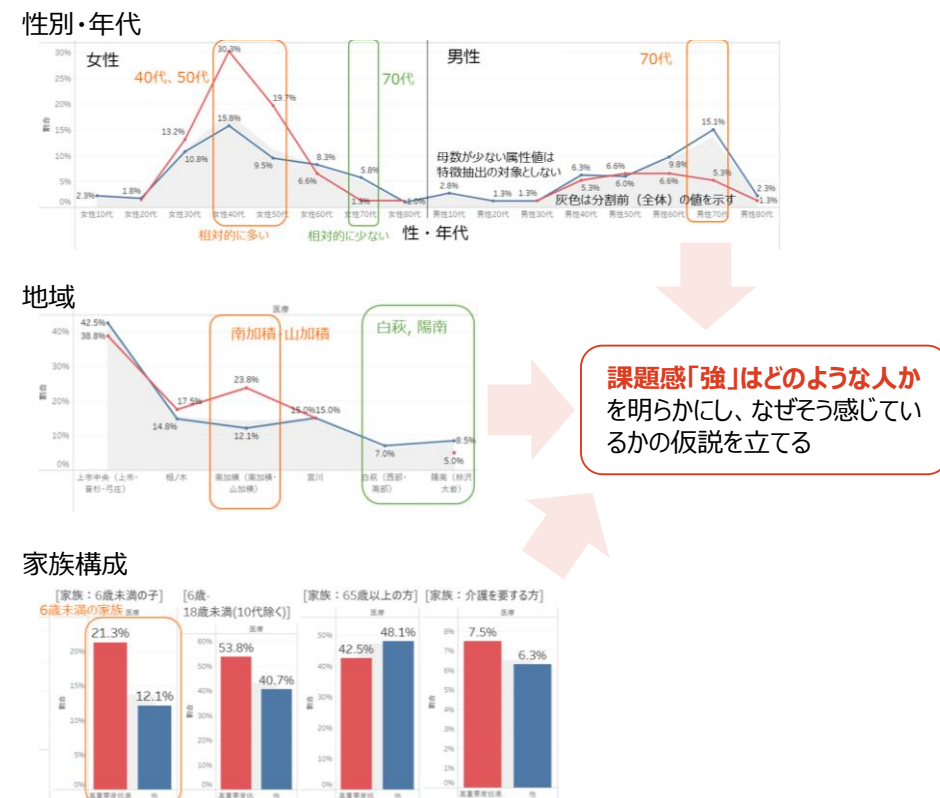
課題感が強い取組みを選定



課題感の強弱で回答者をグループ化

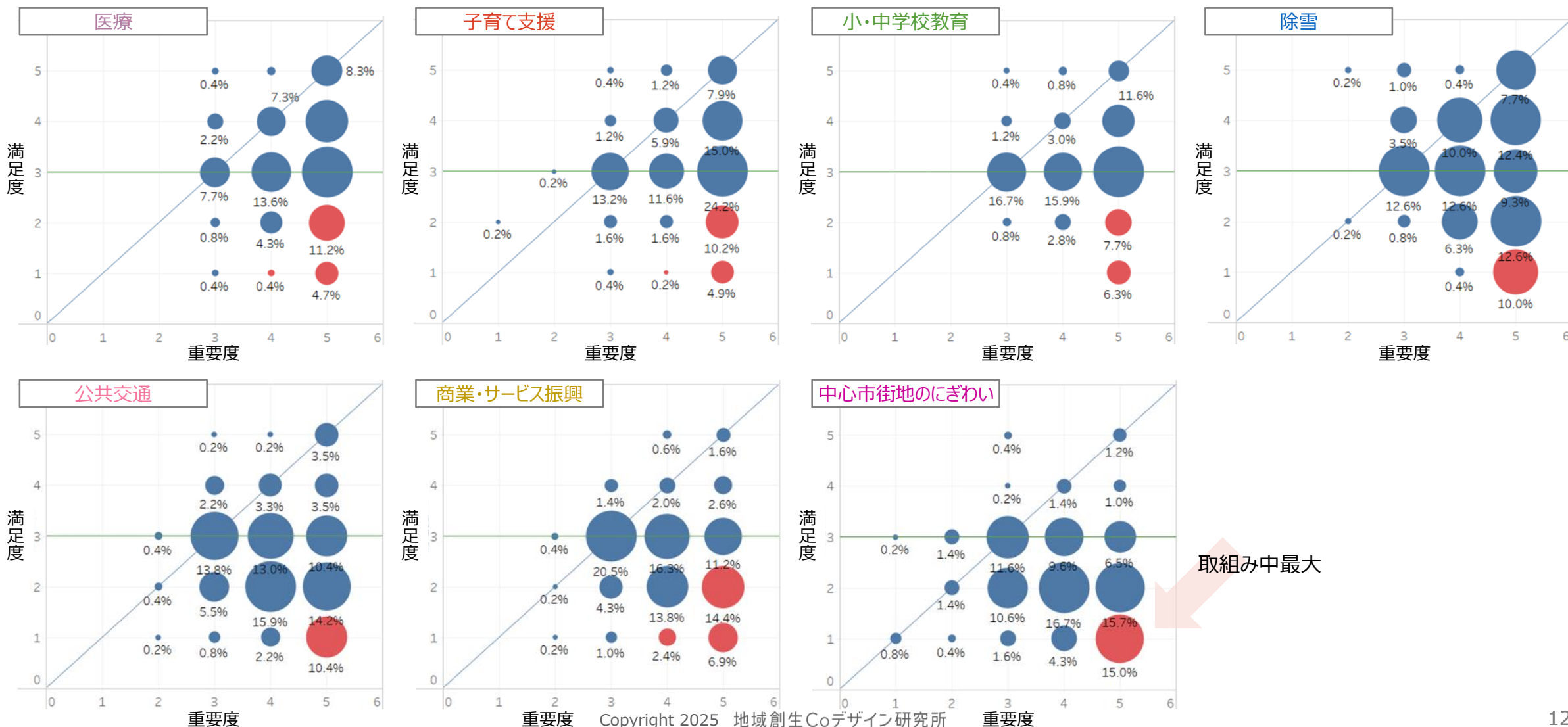


属性別に回答者グループ間の差異を確認し、仮説を立てる



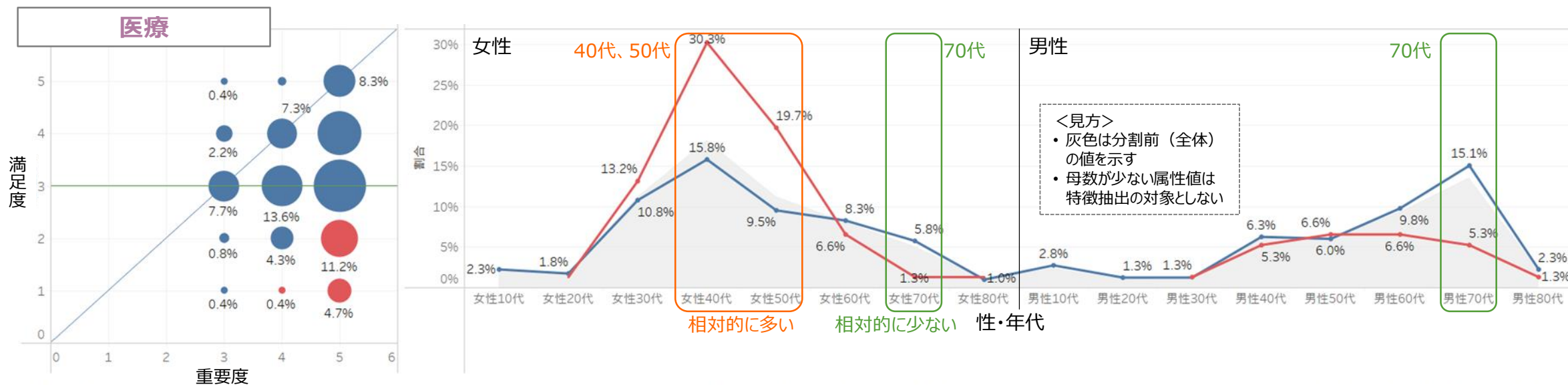
3.2 課題感が強い取組みのバブルチャート：サマリ

- 課題感が強い7つの取組みについて、バブルチャートで可視化を実施。
- 「中心市街地のにぎわい」は重要度=5, 満足度=1の回答者数が取組み中最大となっている。

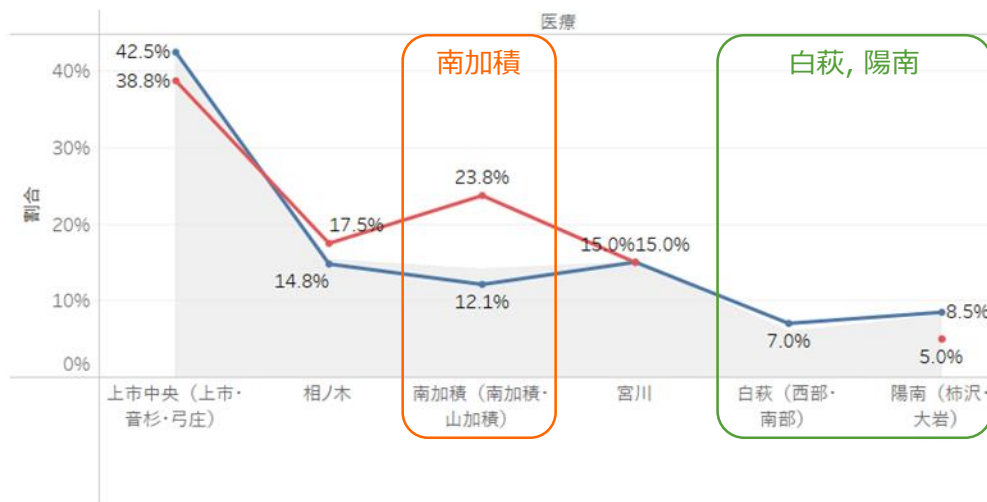


取組み中最大

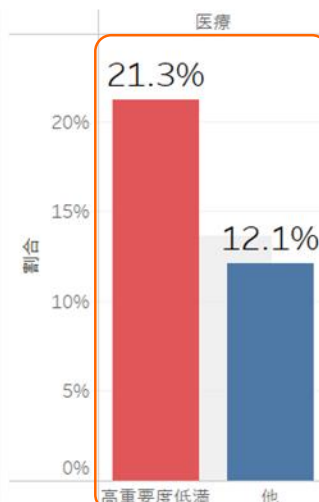
3.3.1 【分析例】課題感「強」の属性分析：医療



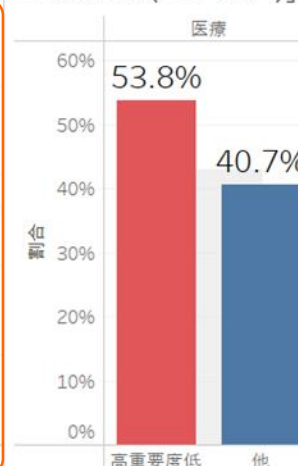
[小学校区]



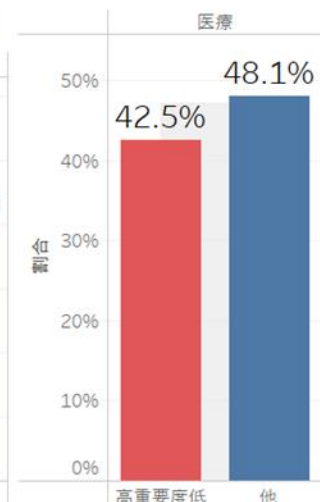
[家族：6歳未満の子]



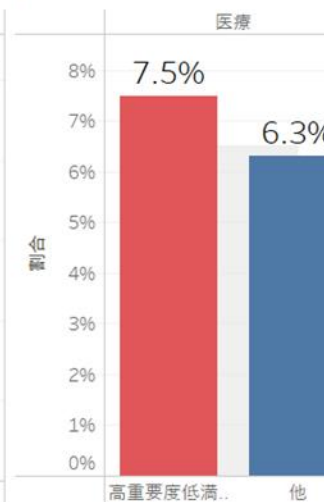
[6歳-18歳未満(10代除く)]



[家族：65歳以上の方]



[家族：介護を要する方]



3.3.2 【分析例】課題感「強」の仮説：医療

● 高重要度・低満足度となる回答者の属性特徴

- 女性40代、50代が多い
- 「6歳未満の家族あり」が多い
- 女性70代で少ない
- 南加積地区が多い
- 男性70代が多い
- 白萩地区、陽南地区で少ない

● 高重要度・低満足度となる要因についての仮説

- 女性40代、50代で家族に小さい子どもがいる場合、**病気への対応時の負担感が大きい**ことが推察される（30代だと現在の支援で対応できている？ 体力面？）
- 女性70代では、現在の医療体制で問題が少ないことが推察される（対応できる範囲の疾病など）
- 南加積・山加積地区は診療所から遠い？
→南加積で診療所が閉じたが、白萩・陽南も診療所は無い

3.4. 課題感が強い取組みの分析結果

1. 医療

- 重要度が全項目中で最も高い。
- 特に南加積地区の40代女性に課題感が強く、診療所の閉鎖や「かかりつけ医」喪失による不安が背景にある可能性。
- 家族の医療対応を担う層にとって、時間的・心理的負担が大きい。

2. 子育て支援

- 30～50代の女性に課題感が強く、育児当事者の負担感が顕著。
- 経済的支援や保育環境の充実が強く求められている。
- 地域差もあり、相ノ木地区では課題感が強く、白萩・陽南では弱い。

3. 小・中学校教育

- 女性40代に課題感が強く、教育の当事者としての不安が背景。
- 学校統合による教育環境の変化への懸念が見られる。
- 少人数教育への期待と現実のギャップが課題感を生んでいる。

4. 除雪

- 30～50代の男女に課題感が強く、特に子育て世代にとって負担が大きい。
- 転入者と地元民で認識に差があり、雪への慣れの有無が影響。
- 高齢者層では課題感が少なく、支援体制の有無が影響している可能性。

5. 公共交通

- 女性30代・50代、要介護家族を持つ層に課題感が強い。
- 地域によって交通手段の制約が異なり、南加積地区で特に強い不満。
- 子どもの移動や高齢者の通院など、生活の質に直結する課題。

6. 商業・サービス業の振興

- 女性40～50代に課題感が強く、日常の買い物やサービスの利便性が低い。
- 南加積・相ノ木地区など中心部から離れた地域で不満が多い。
- 若年層や子育て世代では町外利用が多く、町内の魅力不足が課題。

7. 中心市街地のにぎわい

- 30代女性・50代女性・60代男性に課題感が強く、余暇の過ごし方に関する不満が背景。
- 高齢層では関心が薄れる傾向があり、世代によってニーズが異なる。
- 地域差があり、相ノ木地区で課題感が強く、白萩・陽南では弱い。

第4章：個別テーマの分析

4.1. 個別テーマの分析結果

● 意見照会設問の分析

少子化対策・人口減少抑制策・移住定住対策・将来像に関する住民の意見を、課題感の強さや年代別に分けて分析。

主な示唆：

- 少子化対策では「**経済的負担軽減**」が最も重視され、次点で「**保育環境の充実**」が挙げられる。
- 課題感が強い層（特に子育て支援・小中学校教育・医療）では、保育や医療体制へのニーズが顕著。
- 年代別分析では、子育て世代（30～50代）と高齢者（60代以上）で要望が大きく異なる。
- 移住・定住対策では「**住宅購入・家賃支援**」が課題感の強い層で突出しており、働く場の創出も重要視される。

● 個別論点の詳細分析

分析から浮かび上がった3つの論点について深掘りを実施。

主な論点と示唆：

1. 医療の地域差（南加積 vs 白萩・陽南）

- 南加積では診療所の閉鎖が影響し、特に40代女性で課題感が強い。
- フルタイム勤務者が多く、医療アクセスの不便さが負担感に直結。

2. 除雪における転入者の視点

- 地元民は雪に慣れているが、転入者（特に女性30代・50代）は負担感が強い。
- 子育てや生活の不便さが背景にある。

3. 公共交通における当事者意識

- 女性30代では子どもの活動制約、女性50代では要介護者の移動支援が課題。
- 地域によって課題の背景が異なる（南加積では自身の活動制約が主）。

● 子どもの数に基づく少子化対策分析

現在と希望する子どもの数の差から、少子化対策のニーズを分析。

主な示唆：

- 希望する子どもの数 > 現在の数の回答が多く、出生率低下の要因が反映されている。
- 女性30～40代では、**経済的負担軽減**と**保育環境の充実**が最も求められている。
- 子どもが3人以上になると、**多子世帯支援や職場環境改善の要望**が急増。
- 男女比較では、女性は保育環境を重視し、男性は職場環境改善を重視する傾向。

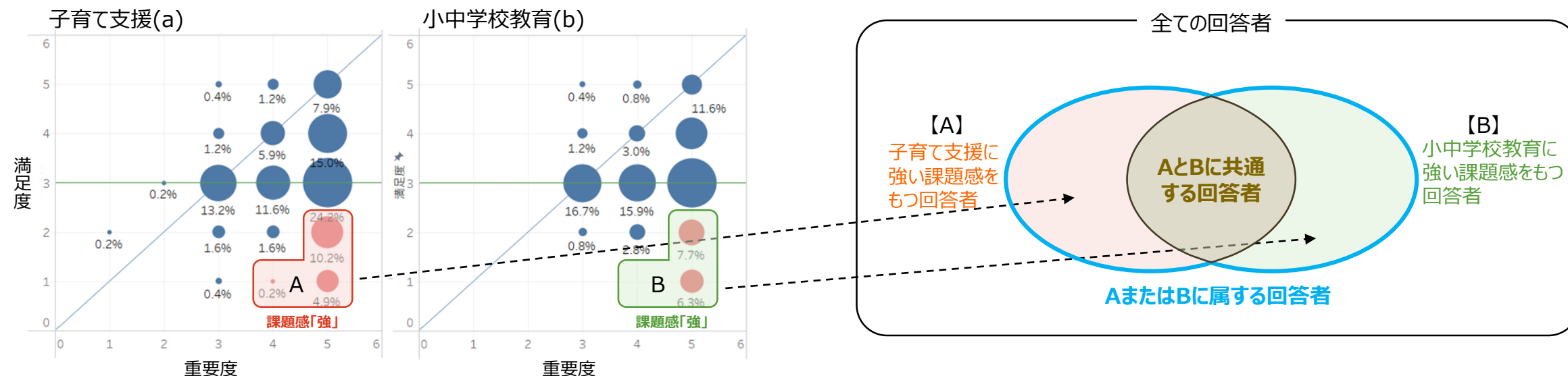
第5章：取組みの近さの分析

5.1 強い課題感の回答者に基づく取組み間の近さ：考え方

- 2つの取組みa、bに対して、強い課題感の回答者A、Bをそれぞれ取り出す。
- 2つの取組みa、bの「強い課題感の回答者に基づく近さ」をAとBに共通する回答者の、AまたはBに属する回答者に占める割合により測る。
- これにより、分野間の連動した政策による相乗効果の発揮のしやすさを定量的に測る。

$$\text{2つの取組みa、b間の「強い課題感の回答者に基づく近さ」} = \frac{\text{AとBに共通する回答者数}}{\text{AまたはBに属する回答者数}} \quad (\text{AとBの和集合}[A \cup B] \text{ に対するAとBの積集合}[A \cap B] \text{が占める割合})$$

例：子育て支援と小中学校教育に強い課題感を持つ回答者の近さ



5.2 強い課題感の回答者に基づく取組み間の近さ：計算結果

- 重要度x満足度の観点で相対的に強い課題感が伺われた7つの取組みに着目。
- 各取組みのペアに対して、強い課題感に基づく近さを算出。

	医療	公共交通	子育て支援	除雪	商業・サービス業の振興	小・中学校の教育	中心市街地のにぎわい
医療	1.00	0.22	0.35	0.13	0.24	0.24	0.18
公共交通	0.22	1.00	0.25	0.20	0.21	0.19	0.26
子育て支援	0.35	0.25	1.00	0.19	0.21	0.25	0.22
除雪	0.13	0.20	0.19	1.00	0.11	0.15	0.16
商業・サービス業の振興	0.24	0.21	0.21	0.11	1.00	0.18	0.35
小・中学校の教育	0.24	0.19	0.25	0.15	0.18	1.00	0.22
中心市街地のにぎわい	0.18	0.26	0.22	0.16	0.35	0.22	1.00

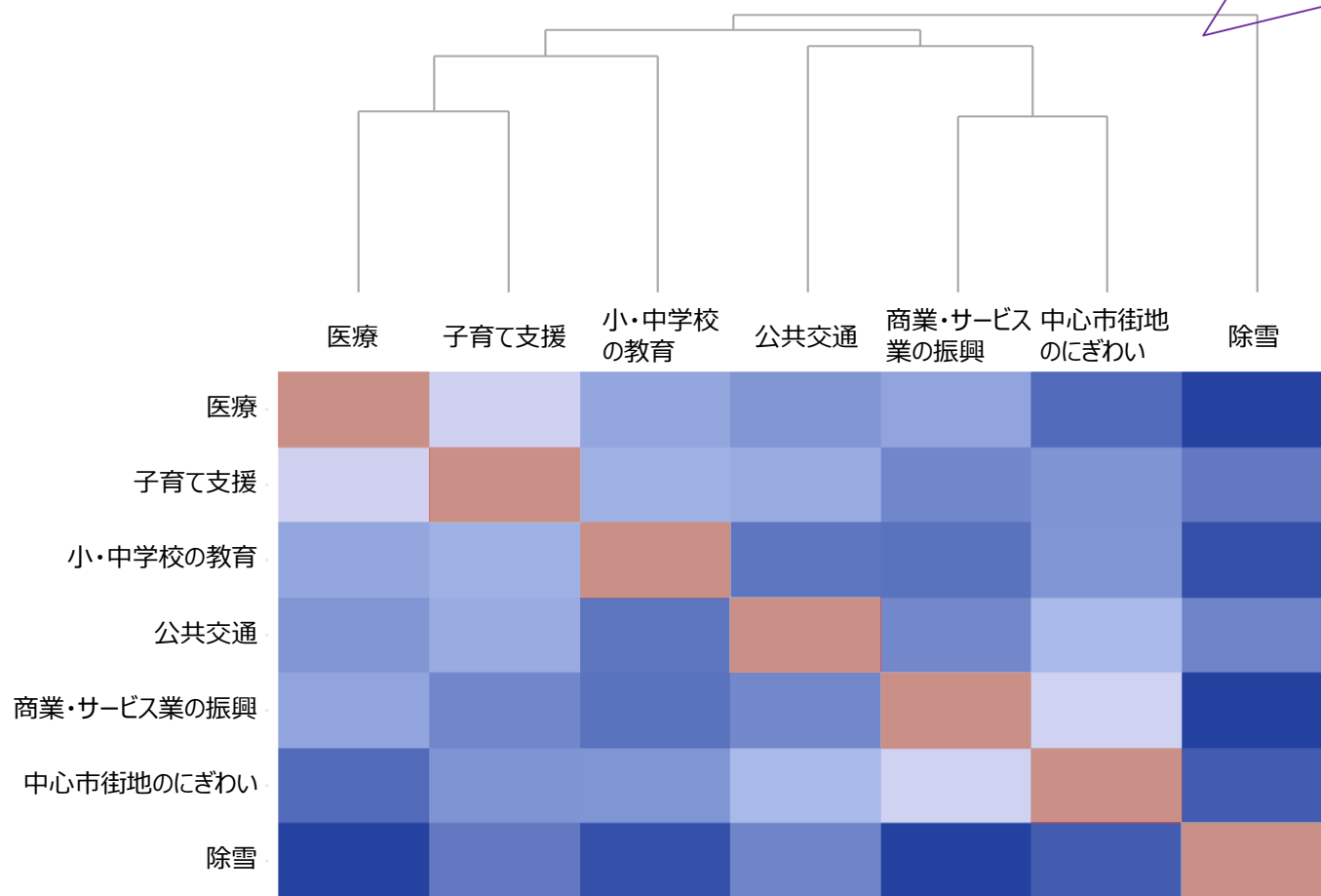
<計算式>

$$\begin{array}{c}
 \text{2つの取組みa、b間の} \\
 \text{「強い課題感の回答者に基づく近さ」}
 \end{array}
 =
 \frac{\text{AとBに共通する回答者数}}{\text{AまたはBに属する回答者数}}$$

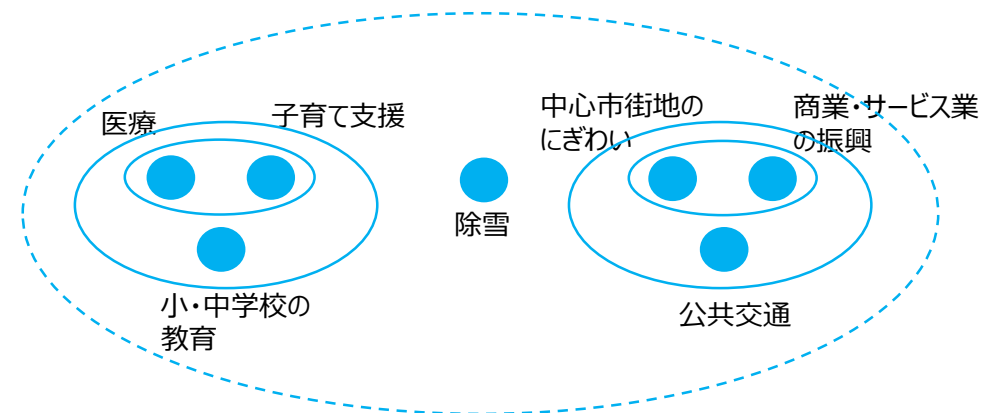
5.3 強い課題感の回答者に基づく取組み間の近さ：クラスタリング

前ページの近さを用いて、課題感が強い7つの取組みについて、階層的なクラスタリング（まとまり）を作成。

近さの計算結果を用いると、7つの取組みについて、階層的なクラスタリング（まとまり）が作成できる



- I. 子育て支援-医療が近く、少し離れて小・中学校の教育がある。
- II. 中心市街地のにぎわい-商業・サービス業の振興が近く、少し離れて、公共交通がある。
- III. I、IIとやや離れて除雪がある。



第6章：参考資料

6.1：地域別の優先課題

「課題感が強い取組み」とその地域的傾向は以下の通り。

● 地域別の優先課題一覧

地域名	優先課題	背景・補足
南加積・山加積	医療、除雪、公共交通、商業・サービス業の振興	診療所の閉鎖による医療アクセスの悪化、雪への対応負担、交通手段の制約、買い物の不便さ
相ノ木	子育て支援、公共交通、商業・サービス業の振興、中心市街地のにぎわい	子育て世代が多く、交通や商業施設へのニーズが高い。中心市街地への関心も高い
白萩・陽南	小・中学校教育（白萩）、中心市街地のにぎわい（少ない）	教育統合への不安（白萩）、中心市街地への関心は低め。子育て世代の回答が少ない傾向
上市中央	特定の課題は見受けられないが、立地から中心市街地のにぎわいに関する意見が多い可能性あり	地理的に中心部であるため、にぎわい創出や商業振興が重要と推察される
宮川	医療、移住・定住促進（一部）	高齢者や移住者のニーズが混在。医療アクセスや住環境への関心が見られる

● 地域別課題の特徴的な傾向

➤ 南加積・山加積

- **医療課題が突出**：診療所閉鎖の影響が大きく、特に40代女性で負担感が強い。
- **公共交通・除雪・商業振興**：生活利便性の低下が課題感に直結。

➤ 相ノ木

- **子育て支援が最重要**：子育て世代が多く、保育・教育環境へのニーズが高い。
- **交通・商業・にぎわい**：生活の質向上に直結する要素として重視。

➤ 白萩・陽南

- **教育課題（白萩）**：学校統合に対する不安が背景。
- **子育て支援・医療課題は少ない**：子育て世代の回答が少ないため、当事者意識が低い可能性。

- 住民ワークショップは中高生と多世代で1回ずつ実施し、上市町の「魅力・良いところ」と「課題・足りないところ」を挙げたうえで、今後「重点的に取り組むべきテーマ」を議論。
- 中高生・多世代で共通して、上市町の良いところを「自然・環境」、足りないところを「にぎわい・娯楽」とした。
- 加えて、中高生では交通手段の少なさ・不便さが際立ち、自動車免許を持たないことが影響していると推察された。

■ 中高生ワークショップにおける意見

分野	魅力・良いところ	課題・足りないところ	重点的に取り組むべきテーマ
自然・環境	劔岳や山の景観、自然の豊かさ、空気・水・米の美味しさ（最多意見）	害獣（熊・鹿）、蜂が多い、木が倒れそう	自然を壊さず豊かに保つ
人・地域のつながり	地域の人優しい、町民同士の仲の良さ、あいさつ文化	—	—
食・地元資源	地元グルメ（サンタエンジェル、ププププリン）、田んぼの多さ	コンビニの種類が少ない（セブン・ローソン）	—
にぎわい・娯楽	映画「おおかみこどもの雨と雪」の聖地、レトロな雰囲気	イオンや映画館、カフェ、イベント、遊ぶ場所の不足（最多意見）	カミールの改修、イベントの拡充、カフェの設置、上市駅の改修（2グループ）
生活環境	ゴミが少ない	自習場所の不足、ポイ捨て、街灯の暗さ	ポイ捨て対策
交通・インフラ	電車の本数が多い	道路・歩道の狭さ、駅の華やかさ不足、交通手段の少なさ	道路整備、移動手段の充実（2グループ）
高齢化・福祉	—	高齢化、介護施設や病院の不足	—
防災・その他	時計のアラーム、コンビニが多い（ファミマ）	震災時の家屋倒壊、新しいものが少ない	空き家リフォーム支援

■ 多世代ワークショップにおける意見

分野	魅力・良いところ	課題・足りないところ	重点的に取り組むべきテーマ
自然・環境	水・空気の美味しさ、劔岳、温泉、星空、静かな雰囲気（最多意見）	—	—
人・地域のつながり	地域住民の親切さ、有志の活動、つながりの強さ	地域活動が高齢者中心、変化への抵抗	—
食・地元資源	海の幸・山の幸、湧き水スポット、景観	—	—
にぎわい・娯楽	—	上市駅の寒々しさ、飲食店・娯楽施設の不足（最多意見）	上市駅の整備・活性化（3グループ）
生活環境	コンパクトシティ、除雪対応、アクセスの良さ	子育て支援の不足、図書館の充実、耕作放棄地	医療・子育て支援の充実
交通・インフラ	駅・スマートインターの存在	公共交通の不足、ライドシェアの必要性、道の狭さ	交通手段の多様化
高齢化・福祉	—	産婦人科・耳鼻科の不足、単身者向け住居の不足	医療体制の充実
防災・その他	—	Uターン支援の条件、町関係機関の対応	空き家活用、町の魅力発信
情報発信・観光	映画の聖地、観光資源（大岩・劔岳）	魅力の発信不足、観光資源の活用不足	発信方法の検討、映画資源の活用
経済・産業	—	企業誘致の必要性、働く場所の不足	雇用創出のための施策

6.2.2：中高生と多世代の視点の共通点・相違点

- 中高生と多世代で共通する視点と異なる視点を整理。
- 異なる視点については、人生経験の差に起因すると思われるものが多く見られたことから、政策検討にあたっては共通する視点と多世代のみの視点を優先することが基本と考える。

グループ分け	分野	中高生	多世代
中高生と多世代で共通する視点	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 両者とも「自然の豊かさ」「剱岳の景観」「水・空気の美味しさ」を魅力として強調。 自然が生活の質を高めているという認識が共通。 	
	にぎわい・娯楽	<ul style="list-style-type: none"> 娯楽施設や飲食店の不足を課題として挙げており、にぎわいの創出が重要テーマ。 上市駅やカミールの整備、イベントの充実などが求められている。 	
	交通・インフラ	<ul style="list-style-type: none"> 道路の狭さ、公共交通の不便さが共通の課題。 車依存の生活に対する懸念や、移動手段の多様化が必要とされている。 	
	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 中高生は自習場所やポイ捨て問題、多世代は子育て支援や図書館の充実など、生活の質に関する課題を挙げている。 両者とも「住みやすさ」を重視している。 	
	情報発信・観光	<ul style="list-style-type: none"> 映画「おおかみこどもの雨と雪」の聖地としての価値を認識。 観光資源の活用と町の魅力発信の必要性を共有。 	
中高生と多世代で異なる視点	人・地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> 「人柄の良さ」「あいさつ文化」など日常的な人間関係を良いところとして注目。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域活動の担い手不足」「高齢者中心の活動」など、地域運営面での課題を指摘。
	食・地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 地元グルメやコンビニの種類に関心があり、良い点・課題双方で捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 海の幸・山の幸、湧き水など自然資源を良い点として捉えている。
	高齢化・福祉	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者施設の不足を課題として挙げるのみ。 	<ul style="list-style-type: none"> 産婦人科・耳鼻科の不足、単身者向け住居など具体的な医療・福祉課題を提示。
	防災・その他	<ul style="list-style-type: none"> 震災時の家屋倒壊を懸念。 	<ul style="list-style-type: none"> Uターン支援の条件、町関係機関の対応など制度面の課題を指摘。
	経済・産業	<ul style="list-style-type: none"> 中高生からの言及は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業誘致や雇用創出の必要性を課題として強く訴えている。



地域創生Coデザイン研究所